

イフ文ヲ庚申ノ日唱レバ、其鬼ヨロコビテ難ヲ禳、福ヲ與トイヘリ、マタ爲憲ノ口遊トイヘルモ
 ノニハ、彭矯子、彭常子、命兒子、悉入幽冥之中、去離我身ト云文ヲ庚申ノ夜唱ベシト云々、遵生八牋
 ニ、庚申ヲ守ル法ヲ一卷載タリ、此ニ略ス、可往見、如上諸書ニ載テ侍レドモ、是皆仙人ノ脩行ノ法
 ニシテ、佛法ニハ沙汰モナキ事ナリ、故ニ事苑ニ曰ク、守庚申事、出道家、非佛經所出、乃當知非佛法
 ト云々、又僧史略ニモ、庚申會ハ道士ノ邪法ニシテ、釋氏ハ不可行ト見エタリ、亦神道ニモ非ズ、
 略 或人云ク、人ノ軀ノ裏ニ一箇ノ心性アツテ、手足百骸ノ主宰タリ、ナンゾ三尸ノ神アツテ、身ノ
 上ニ居テ、人ノ邪惡ヲ察センヤ、是仙術ヲナラフ者ノ妄說ナリ、日本ニ於テモ、人民庚申ヲ守リ、堂
 ヲ建、庚申ノ神ヲ造、其形三面四臂ニシテ、弓矢ヲ羅、戈ヲ操、其像奇怪ナリ、庚申ノ日ハ齋戒沐浴シ
 テ、酒果ヲ設、燭ヲ立テコレヲ守テ、雞ノ鳴ニ至ル、其說ニ曰ク、大寶元年庚申ニ、此神天ヨリ攝州四
 天王寺ニ降レリ、爾來敬之、守之者災ヲ除、福ヲ受ルコト無量ナリト云々、日本續紀ヲ按ズルニ、文
 武天皇大寶元年ハ辛丑ノ歲ニテ、庚申ニ非ズ、マタ神天ヨリ降ノ事ナシ、蓋日本紀ニハ一草一木
 ノ異トイヘドモ必ズコレヲ筆ス、若庚申ノ神ノ事アラバ、何ゾ不載ヤ、マタ按ズルニ、元亨釋書寺
 像志ニ、四天王寺ノ事ヲ載ス、シカルニ一言モ庚申ノ事ヲ不言、イヨク、庚申ノ事、不根事ト見エ
 タリト云々、シカレドモ庚申ノ神ヲ信ジ、庚申ノ日ヲ守、災厄ヲ除キ、福壽ヲ得ト深ク信ゼバ、信力
 ヲリ、其利益ヲ得道理アラシク、略 或說ニ、庚申ハ、猿田彥大神ノ司タマフ日ニテ、彼大神ヲ祭ト
 謂、マタハ庚ハ五行ノナカニ金ナリ、申モマタ金ニ當レバ、金ト金ト剋スル日ナレバ、ツ、シムベ
 キ日ナリ、此故ニ中ニ土ヲ入テ、相生ノ祭ラスルト云リ、是等ノ說ミナ附會ノ論鑿說ナリト云々、
 〔東都歲事記〕正月庚申日年中庚申參。高輪常照寺 愛宕下眞福寺 入谷喜寶院 八丁堀松屋
 橋東詰或は今日俗家にも青面金剛をまつり、又庚申待の酒宴を催す、
 橋東詰或は妙豆を食し、女子縫針の業をとめ、鐵醬をつけず、
 〔本朝文粹〕十一冬夜守庚申同賦、修竹冬青應教

藤篤茂